

第四十二回 高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式

第42回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式は、8月23日（日）、日本武道館（東京・千代田区）において開催された。

展覧会には受賞者及びその関係者ら延べ約1千名が来場した。授賞式では、毛筆の部1万3千980点、硬筆の部7千712点の合計2万1千692点の出品作品から選ばれた特別賞260名、優秀・優良団体賞24団体が表彰された（当日欠席者含む）。最高賞の高円宮賞は、濱田^{はまだちよう}聴雨（兵庫県神戸市西区・一般）さんが受賞し、高村正彦大会会長・日本武道館会長より賞状と高円宮杯が手渡された。



◇展覧会

大道場に隣接する中道場で開催した展覧会には午前10時の開場から多くの観覧者が来場した。高円宮賞をはじめ、内閣総理大臣賞、日本武道館大賞、衆議院議長賞、参議院議長賞など特別賞受賞作品260点（毛筆173点・硬筆87点）に加えて、本誌手本揮毫の先生方による特別出品作品（23点）が展示された。

◇授賞式

午後1時、授賞式の開式に先立ち、本年7月末の熊本地震や8月千葉豪雨によって亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げた。

はじめに、主催者を代表して高村正彦大会会長が挨拶に立ち、「ここ、日本武道館において、『第42回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会』が盛大に開催されますことは、主催者として、大きな喜びであります。この展覧会は、昭和60年（1985年）に第1回が開催され、我が国の書道展では、唯一の高円宮杯をいただいております。以来、本年で第42回を迎えることができました。あらためまして、高円宮賞をはじめ、栄

えある各賞を受賞された皆さん、この度は誠におめでとうございます」と述べた。

続いて、水谷^{みずたに}尚人^{なおひと}文部科学省初等中等教育局視学官が、「この度、多数の作品の中から、高円宮賞をはじめとする栄えある各賞を受賞された皆様、本当におめでとうございます。書写・書道は我が国が世界に誇るべき伝統文化の一つであり、文字を正しく整えて書く力を育み、その力を学習や生活の中で役立てる態度を育てる重要なものです。」

現在、『書道』をユネスコ無形文化遺産に提案しているところであり、本年十二月には、政府間委員会において登録の審議が行われる予定です。今後も皆さんが、書写・書道を通して、自らの可能性を最大限に発揮することを願うとともに、将来の予測が困難なこの時代においても、力強く輝かしい未来を切り拓かれることを心から期待しています」と松本洋平文部科学大臣のご祝辞を代読した。

その後、表彰に移り、最初に高村大会会長から高円宮賞受賞者の濱田さん



加藤東陽
大会審査部長



片岡正徳 大会委員長
日本武道館常任理事・事務局長



水谷尚人 文部科学省
初等中等教育局視学官



高村正彦 大会会長
日本武道館会長



登壇した受賞者に向けて大きな拍手が送られた

に賞状と高円宮杯が手渡されると、会場から惜しめない拍手が送られた。続いて、内閣総理大臣賞をはじめとする各賞受賞者の表彰、最後に優秀団体賞並びに優良団体賞の表彰が厳かに執り行われた。

すべての表彰後、審査委員を代表して加藤東陽大会審査部長が、「毛筆の部、硬筆の部ともに、出品数の増加とともに、作品のレベルも向上しており、上位の賞は決選投票によって決定するなど、今年も皆さんの実力伯仲を強く



授賞式には保護者等多数の関係者が出席した

感じました。また、現在書道のユネスコ無形文化遺産への登録が注目されています。本展覧会が文字文化を大切に、さらに充実発展してまいりますよう、皆様のさらなるご支援とご協力をお願いいたします」と審査講評を述べた（詳細は15頁）。続いて、受賞者を代表して高円宮賞受賞者の濱田さんが謝辞を述べた（詳細は14頁）。

最後に、片岡正徳大会委員長（日本武道館常任理事・事務局長）が、「高円宮賞をはじめ栄えある各賞を受賞され



日本武道館での授賞式開催は今年で5年目を迎え、
展覧会会場（中道場）には多くの観覧者が来場した

た皆さん、本日は誠にありがとうございます。毎年、受賞された方々の式典に臨む真摯な姿勢に大変感動しております。書写書道は一生涯にわたり続けられる我が国の伝統文化です。ぜひ、これからも書写書道を続けていただき、来年またこの場でお会いできることを楽しみにしております。日本武道館はこれからも伝統文化の次代への継承と、さらなる普及・発展に努めてまいります」と閉会の辞を述べ、授賞式は盛会のうちに終了した。

高円宮杯第四十二回展 受賞者代表謝辞（全文）



兵庫県神戸市西区 一般
濱田 聴雨

本日は、私たちのためにこのような晴れがましい授賞式を開催いただきまして誠にありがとうございます。

第四十二回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会におきまして榮譽ある賞を賜り、受賞者を代表して厚く御礼申し上げます。

本展には、十年くらい前から応募しておりますが、このような賞をいただけるとは思っておりませんでしたので感激しております。審査

員の先生方に御礼申し上げます。今回の賞をいただいたのは、これまでご指導をいただいた先生方のおかげであり、筆を持つことに、理解と協力をしてくれている家族のおかげであり、心より感謝しております。

私は小学校一年生の時に近所の書道教室に通わせてもらってからずっと続けております。中学、高校も書道部でした。中学三年生の時に古典臨書を始め、高校生の頃から書道展に足を運び、多くの先生方の作品を拝見して、目勉強をするようになりました。お手本をいただいて書いていたのは高校一年生まででした。それ以降は、古典の法帖^{ほうしやう}を直接見て臨書をし、先生に書いたものを持参し、助言指導をいただき、書道展を見て勉強し、創作作品は、字典を引いて紙面構成を考えて制作するという勉強方法が続けてまいりました。

なかなか思うように書けず、自分の未熟さをもいつも痛感します。筆を持つ時間を確保できない日も少なくありませんが、好きな書の勉強はこれからもずっと続けていくつもりです。

浅学非才の身ですが、今回の授賞を励みに、今後も書の勉強を続け、人に感動を与えられるような品格ある作品を書けるようになることを目指して、一歩ずつ歩んでまいりたいと思つて

おります。

審査員の先生方、展覧会を開催して下さいました主催者・関係者の皆様に感謝申し上げます、御礼の言葉とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

令和八年八月二十三日

受賞者代表 濱田聴雨



展示会場に展示された高円宮杯と受賞作品